

右「Portrait of TIBET」1999年

左「ariphoto/Shinjuku」2013年

すべてゼラチンシルバープリント 385mm×385mm

# 有元伸也写真展

ariphoto in niigata 2015



## 砂丘館

〒951-8104 新潟市中央区西大畠町5218-1  
tel./fax.025-222-2676 sakyukan@bz03.plala.or.jp  
指定管理者 新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体  
\*会場には駐車場がありません。近隣の駐車場をご利用いただぐか、公共交通でご来場下さい。  
\*新潟市西堀地下駐車場をご利用の方は、駐車券提示にて1時間分の無料券を差し上げます。  
新潟駅からのバス 「西循環」(12・12A系統)又は「観光循環バス」乗車、「西大畠坂上」バス停下車徒歩1分

2015/2/17tue.-3/22sun. 9:00-21:00

観覧無料 休館日/月曜日

砂丘館ギャラリー(蔵)十一階全室

\*一階和室は市民利用等で見学できない場合があります。

主催/砂丘館

企画協力/石井仁志  
(メディアプロデューサー)

新潟日産自動車株式会社

あられ 株式会社

NSGグループ

株式会社 ナレッジライフ

新潟ビルサービス

丸屋本店

郷土の文化に親しむ会

藤田金属

砂丘館



日本銀行新潟支店



[ariphoto2008 vol.1] トボク-2008年  
新宿-2008年



[ariphoto2010 vol.2] 魚多摩-2010年  
新宿-2010年



有元伸也の写真をみると、包まれるこの不思議な感情はなんだろうか。

被写体のまっすぐな視線から伝わる人間の厚み。

地に足をつけ、立ち、生活をし、存在している生への尊厳と敬意。

どっしりとした質量を持って、それらは見るものに迫ってくる。

撮り、焼きつける手作業を通して、印画紙にすくいだされたこれらの写真が指示するには、わたしたち人間の誰しもが、共通して秘め持つものありか。

——それがチベットの僧であれ、新宿の浮浪者であれ（はたまた山奥の虫や蛇であれ）、有元の眼はそのひとの内美に住む、「神」（神性）へとそががれているのではないか？

写真やカメラが背負う「被写体への侵入」という原罪にあらがい、「不可侵」への意志を携えた有元の写真は、こうとしか生きれない、という人々のひたむきな生への、まなざしの拘錠であると思う。

小田鶴子（砂丘館）

太陽賞受賞の初期作「西藏より肖像 Portrait of TIBET」から、路上を彷徨いながら、変遷を続ける都市のなかにプリミティブな生命の営みを探し求める近作「ariphoto」のシリーズまで、フィルムカメラによる撮影とモノクロプリントを主に制作された写真家・有元伸也の作品約60点を、新潟で初めてご紹介します。

#### 有元伸也(あもと しんや)

1971年大阪生まれ。ビジュアルアーツ大阪を卒業後、フリーランスの写真家としてのキャリアを開始。5年間にわたるチベットでの制作をまとめた写真集「西藏より肖像」で第35回太陽賞を受賞。現在は東京を拠点にし、国内外での個展やグループ展を精力的に開催。また自身のギャラリーである「Totem Pole Photo Gallery」を運営し、そこでの展覧会や写真集出版を中心に活動している。<http://arimotoshinya.com>

#### 会期中の催し

##### ギャラリートーク

「チベット-東京、有元伸也の写真をつなぐもの」

2/28sat.15:00-16:30

お詫/有元伸也、石井仁志 聞き手/大倉宏（砂丘館館長）

参加費/500円（予約不要、直接会場へ）

##### 有元伸也 フォトワークショップ「人を見つめる、人を撮る」

3/1sun.14:00-16:00

ポートレート撮影のポイントについて解説。作品講評および実践撮影も！

講師/有元伸也 参加費/2,000円・学生1,500円 定員/15名（先着順/要予約）

デジタルカメラ、講評希望の方は作品をご持参下さい。

申込み:砂丘館 Tel.fax.025-222-2676

E-mail:sakyukan@bz03.plala.or.jp